

やんばる地域の国立公園を考える シンポジウムを開催しました

3月29日（土）、やんばる地域の自然資源を活用してどのような地域を目指していくのかを考えることを目的に、「やんばる地域の国立公園を考えるシンポジウム」（主催：環境省那覇自然環境事務所、沖縄県、国頭村、大宜味村、東村）が大宜味村喜如嘉の農村環境改善センターで開催されました。



第1部では話題提供として、環境省から昨年度とりまとめた「やんばる地域の国立公園に関する基本的な考え方」を紹介したあと、(株)リクルートじゃらんリサーチセンター客員研究員の玉沖仁美氏から、これまでの統計情報をもとにした観光のトレンドを中心にお話いただきました。

～玉沖さんのお話～ 沖縄県は、来訪者の満足度が高い都道府県、地元の人々のホスピタリティを感じた都道府県の第1位、その他、魅力のある特産品や宿泊施設のある都道府県の上位にランクされるなど評価の高い県である。宿泊旅行の目的は、主に「名所・旧跡の観光」、「美味しいものを食べる」、「宿でのんびり過ごす」である。

また、沖縄県は、「現地小遣い（地域に直接還元されるお金）」が全国の約2倍である。この「現地小遣い」が地域の経済効果に繋がるので、今後、どのように伸ばしていくのか考えていただきたい。

近年、日本全国で地元の資源を活用し、エコツーリズム、体験学習などのような観光に取り組む地域が増えている。その際、自分たちの地域が経済的に潤うための仕組みづくりにも取り組んでいる。ただし、経済優先の考え方では、地域が荒廃してしまうので、「経済の活性化」と「地域の資源を守りながら活かすという考え方」を二つの車輪のような形で進めていくことが大切。



第2部では「地域が考えるやんばるの将来の姿」と題して、辺土名高校サイエンス部の生徒の皆さんから、やんばる地域における鳥類のモニタリング活動の取組について紹介していただいた後、桜井国俊氏（沖縄大学学長）をコーディネーターとして、地域の方々を中心にパネルディスカッションを行いました。各パネリストの取組の現状報告と、これからの地域づくりのあり方などについて議論を深めました。

今年度から環境省では、まず一部の地域から国立公園の具体的な区域や計画について地域の方々とともに話し合っていく予定です。

特別企画講演会

「オキナワトゲネズミの再発見」を開催します

やんばる地域の固有種で、近年生息情報がなく絶滅が心配されていたオキナワトゲネズミ（ニュースレター第2号で紹介しました）が、研究者による調査によって約30年ぶりに捕獲され生息が確認されました。

今回の調査に関わった方々を招いて、本種の生息状況や研究活動などについてお話していただきます。是非お気軽にお越し下さい。

なお、事前の申し込みは不要です。

日時：平成20年5月25日（日） 18:00-20:00

場所：国頭村道の駅「ゆいゆい国頭」多目的ホール（レストラン「くいな」奥）

主催：環境省やんばる野生生物保護センター（共催 やんばる自然体験活動協議会）

内容（予定）：

「オキナワトゲネズミの再発見」

講師：山田文雄（独立行政法人 森林総合研究所 関西支所 研究調整監）

河内紀浩（島嶼生物研究所 代表）

「トゲネズミたちの不思議ー染色体のはなしー」

講師：黒岩麻里（北海道大学創成科学共同研究機構 講師）



ニュースレターに関する お問い合わせはこちらへ

環境省やんばる野生生物保護センター
〒905-1413

沖縄県国頭郡国頭村比地263-1

TEL：0980-50-1025

FAX：0980-50-1026

e-mail：RO-YANBARU@env.go.jp



パネルディスカッション参加者の主な発言

(桜井: 沖縄大学学長) やんばる地域の国立公園化を考えた場合、他の国立公園にはない特徴がある。豊かな森(生物多様性)を実感できることと地域の人たちの生活文化。国立公園制度は、「保護と利用」を目的としているが、やんばるでは、加えて「知る」が重要となろう。やんばるの生物多様性については、地域の人たちも含め様々な機関で徹底的に解明する必要があると考える。



桜井国俊氏

加えて、将来の具体的なやんばるの観光ビジョンを打ち出し、沖縄県の観光政策にも進言できるような姿勢も重要である。

(久高: 写真家) 地域の人たちは、地域のことを分っているようで実際は分っていない。古くから伝わる地域の伝統行事(祭祀)についても、その意味を十分に理解している地域の人たちは少なく、やんばるでは、豊かな自然が消滅する前に地域の文化が消滅してしまうおそれがある。

今一度、自分たちの地域を見つめ直さなければ、将来、無味乾燥な地域になってしまうおそれがある。

(山川: 国頭ツーリズム協会代表理事) 昨年、「やんばる国頭の森を守り活かす連絡協議会(以下「CGY」)」を設立。CGYは、村内の官民11団体から構成され、「生きものにとって住みよい場所は、人間にとっても住みよい地域である」との考えに基づき、やんばるの森を守り活かすため、村内の各団体の協働・連携により持続可能な村づくりに貢献することを目的とする。



山川安雄氏

昨年の具体的な活動内容としては、農家への鳥害のヒアリング、保全型自然活用事業の可能性を考える勉強会を開催したほか、自然資源を活用した観光のあり方として、持続可能な環境容量の算定とそれに伴う経済効果など、観光利用に伴う自然資源への影響・評価方法の研究、地域住民が自発的に考え行動する「国立公園に関する学習会」を行ってきた。

(米須: 日本ウミガメ協議会会員) やんばる地域はウミガメの重要な繁殖地であり、国立公園を考えると、森だけでなく海岸・海域も含めて検討する必要がある。

大宜味村では、自分たちの地域が自然資源豊かな地域であると認識しているが、現時点ではその自然資源の活用方法について模索中。今後は、具体的な行動に移すための仕組み作りを確立する必要がある。



米須邦雄氏

国立公園に関して、大宜味村としてどう取り組むべきか、多くの村民の参画により議論を重ねることが重要。

(港川: 東村グリーンツーリズム研究会会長) 東村グリーンツーリズム研究会の活動内容について、東村では、グリーンツーリズム体験者を県内外から年間3500人受け入れており、受け入れ農家独自のカリキュラムを体験してもらっている。第4次東村総合計画基本構想では、交流型農家の充実を打ち出しており、受け入れ農家のキャンペーン、経済的効果から、将来的に5000人の受け入れを目標としている。



港川寛登氏

(玉沖) 本日のシンポジウムのように、分からないこと、疑問に思ったことをみんなで考え、共有することが大切。今後もそのような地域であってほしい。

また、ツーリズムを取り組む上で、食(美味しい食を提供できる店、お土産など)に関する問題、課題が必ず生じる。大宜味村は、ツーリズムの専門組織が発足していないとのことだが、県外では、おいしい食を提供できる地域として有名である。やんばる3村は、それぞれ地域ごとの特徴があり、訪れる人が楽しくなる地域である。今後も地域の考え方をしっかり持った地域づくりに取り組んでほしい。

(久高) (会場からの林道に関する質問に対し) 沖縄的林道は林業のための道路であるのか、社会構造も含めて現在のやんばるの生業、事業(森林伐採などの開発行為)について、地域の人たちがしっかりと考える必要がある。また、これらの行為に歯止めをかけたいと思うのであれば、理解する努力、知識を身につけるための教育、人材育成が重要である。



久高将和氏

やんばるの森を守りたいのであれば、また、国立公園化、世界遺産登録を考えるならば、やんばるの自然、生きものに関する基礎的な調査を積み重ね、将来に向けたよりよい判断を示していくことが重要である。自然は守れるものと期待したい。

(桜井) やんばる地域の活性化には、生物多様性の解明と同時に経済効果の把握も重要。地域の大学との共同研究、地域の人々との共有により、将来のビジョンを描けるのではないかと期待している。

(山川) 林業者の生活を無視することはできないことから、CGYでは、林業のソフト化に取り組もうとしている。森林セラピー(森林療法)基地の認定、やんばる学びの森に計画中の「学びのゾーン」を林業のソフト事業として位置付け、林業者の生業の転換を図ることができないか検討している。また、マングースなどの外来種対策事業に、森に詳しい林業者が関わることのできる仕組み作りを考えている。

(玉沖) 地域の人たちが、どんどん意見を交わし、議論を積み重ねることにより、今後、益々いい地域になるよう期待したい。東京でもやんばるに関するトピックスが届くことを楽しみにしている。

やんばる野生生物保護センターの最近の話題

この看板を見たらご注意ください!

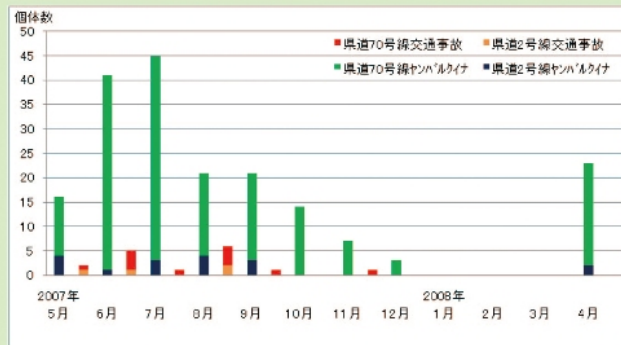
ニュースレター第1号でも取り上げました、野生生物の交通事故についてお知らせします。昨年ヤンバルクイナの交通事故が過去最高の23件を記録したことについてはお知らせしましたが、今年も4月現在で既に3件の交通事故が起きています。

やんばる野生生物保護センターでは、2007年5月から2008年4月までの1年間、交通事故が多発する県道70号と県道2号で、ヤンバルクイナの路上への出現状況を調査しました。その結果、出現が多い場所では事故も多いことや、4月～9月頃にかけての出現が多いこと、朝と夕方への出現が多いことなどがわかりました。

そこで、今年、ヤンバルクイナの出現が多い場所に看板(右下写真)を置いて、ドライバーに注意してほしい場所をお知らせしたいと考えています。この看板を見かけたら、そこはまさに今年ヤンバルクイナが多く出現している場所です。いつヤンバルクイナが飛び出してきてもおかしくない場所として特にご注意ください。

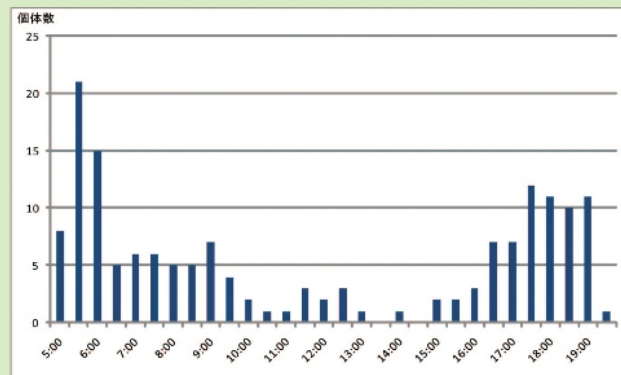
人と野生生物が安心して利用できる道にするために、ご協力をよろしくお願いいたします。

ヤンバルクイナ出現状況調査結果と調査区間の交通事故発生件数(月別)



※調査結果は、2007年5月～2008年4月までの間、県道70号及び県道2号の一部区間において毎月7日間ラインセンサスを実施したものの、事故件数は2007年のデータ。

ヤンバルクイナ出現状況調査結果(時間別)



※県道70号の10キロポスト付近で、終日調査を5日間実施した結果。

この看板を見たらご注意ください!

